

令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

| | |
|----------|--|
| P T A名 | 静岡県立浜北特別支援学校 P T A |
| 学 校 名 | 静岡県立浜北特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱 |
| 設 置 部 | <input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部 |
| 全校児童・生徒数 | 290人 |

1. 使用状況

| | |
|---------------|--|
| 寄贈物品名 | 屋外複合遊具 |
| 使用学年及び人数 | 小学部1年から6年全児童 111人 |
| 使用頻度 | 毎日 |
| 使用状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害教育小学部では体育授業において、基礎的な身体機能を高めるためのサーキット活動に活用している。また、生活単元学習においても活用している。 ・肢体不自由教育のグループにおいては、車いすを使用し移動したり、歩行が不安定であったりする児童が、自立活動の授業において活用している。 ・当初、使用対象としていなかった中学部、高等部においても、休憩時間に心身のリラックスや友人や教師との交友を深める場所として使用している。 |
| 物品の使用による変化や効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育のサーキット運動においては、遊具のスロープ、滑り台、太鼓橋をコースとして使用することで、主体的に時間いっぱい運動に取り組むことができている。生活単元学習では、幅広の滑り台で友達と並んで滑り降りたり、長いスロープで追い掛けっこをしたりするなど、友達を意識しながら笑顔で一緒に遊ぶ姿が多く見られた。 ・肢体不自由児にとって、屋外で外気を感じることは教育的価値が高い。さらに本遊具を活用することで普段感じることのできない、高低差や滑り降りる感覚等を十分に体に取り込むことができている。また、スロープの上から、下にいる友達に呼び掛けたり、手を振ったりする姿や、友達や教師が滑り降りる様子を見ているうちに勇気が湧き、初めて一人で滑り、自信をつけた様子などから、心理面の成長にも大変効果を感じる。 |
| 今後の活用の見通しや課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・申し込み当初は、本遊具の大きさや幅の広さ等を有効に活用し知的障害教育の児童と肢体不自由を併せ持つ児童が共に遊ぶ姿を想定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で実現ができていない。状況が変わった際には目的を達成したい。 ・中、高等部の生徒においても、本遊具の特徴が良い効果をもたらしていることが分かった。今後も休み時間等で活用したい。 |
| その他希望や所感など | <ul style="list-style-type: none"> ・夏季は滑り台の斜面の素材が大変高温になる。教師が先に滑り、確認後使用している。知的障害や肢体不自由障害を有する児童生徒の場合、市販の素材や企画では適さないことも多い。本品も貴社様と業者様の御協力で改良いただき、効果的に活用できている。品物を決定後も調整が必要なことが多々あるため、設置までに時間的な余裕があると良いと感じる。 |

2. 活用の様子



・小学部低学年

友達とのかかわりが芽生え始めた児童。友達を追いかけて、安心して活動している。

滑り台の幅が広く、安全であるため教師が近くに付くことなく子どもたち同士で活動できている。



・小学部高学年

体の大きな児童も一緒に滑ることができる。友達を追い掛け、何度も繰り返して滑っている。

安心して活動できる角度や幅の為、教師は見守ることで十分であり、児童の自発的な活動を引き出すことができる。



高等部 肢体不自由グループ

体の大きな生徒でも車いすのまま遊具に上がることができる。友人と同じ空間、活動を共にできる貴重な経験である。また、教員が複数人一緒に上がることができ安全に介助することができる。